本 号 の 主 要 記 事

○第２回全国理事会
○岩手大会決算報告
○事務職員研修会
○学校組織マネジメント指導者
　養成研修

協会ニュース

第 194 号
平成 27 年 1 月 1 日発行
全国公立高等学校事務職員協会
http：//zenjikyo.jimdo.com/
事務局：東京都立小山台高等学校
　電話 03-3714-8155
　東京都品川区小山台 3-3-32

新年のごあいさつ

☆★☆　子どもたちの未来のために

前向きに　取組む　◇◆◇◆◇

全国公立高等学校事務職員協会　　会長　原　とき枝

全国公立高等学校事務職員の皆様　明けましておめでとうございます。

昨年(2014 年)は、自然災害（雪・雨・雹・台風・地震・噴火・爆弾低気圧）の多い１年でした。

今年こそ、平和でおだやかな日々が過ごせる１年になることを切に願っております。

私の至福の時は、大好きな時代小説を行き帰りの通勤電車で読むことです。一番好きな作品は「佐伯泰英」のシリーズ物です。年々老いとの戦いの中で、１日の内で、１年の内で、好きなことに夢中になれる時間を持つことがいかに大切であるかを実感しています。

さて、今年の全国研究大会は、佐賀県佐賀市で７月２３日から２日間行われます。

佐賀県と言えば、バルーンフェスタ（熱気球大会）が有名です。気球から下の大地をみると気持ちいいかしら！！それから、有田・伊万里・唐津の陶磁器に魅了され、吉野ヶ里遺跡で古代を回想するのもステキだわ！！そして、佐賀牛、呼子の透き通ったヤリイカも堪能したい。

私が最も気になるのは、佐賀県人の県民性です。佐賀県の HP を見ると、異風者（いひゅうもん）・風変者（ふうけもん）⇒変わり者・頑固・融通が利かないとか、葉隠の武士道精神⇒上下関係、しきたりを重んじる・几帳面・まじめなどとあります。７月には、佐賀県人の県民性を研究してみようかと考えています。

そして、全国公立高等学校事務職員協会の歴史も６８年目に入りつつありますが、ますます厳しい状況です。各都道府県市においても、さまざまな事情や課題は抱えておりますが、自助努力をしていただき、事務職員会を盛り上げてほしいと願うばかりです。

このような状況の中、全国協会は、次代を担う子どもたちのために、現状をしっかりと受け止め、原点に返り、会の目的である学校教育効果の進展に寄与できるように前向きに取組んでまいります。本年もよろしくお願い申し上げます。

平成 26 年度

第２回全国理事会報告

期日：平成 26 年 11 月 21 日（金）
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

11 月 21 日（金）、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）において今年度の第２回全国理事会が行われ、全国から都道府県市協会長が参集した。

理事会出席者は、協会役員を含め総勢７４名。以下のとおり全国理事会の概要を報告する。

＜報告事項＞

○協会の活動状況及び情勢について

会長より、理事会資料の「全国理事会議案書」に基づき平成 26～27 年の主な活動内容の報告と今後の活動予定についての説明を行った。

来年度は関東、四国、北信越の各支部大会に役員を派遣する予定である。

○第６７回全国研究大会の決算報告等について

金野岩手県実行委員長より、全国研究大会（岩手大会）の決算報告と参加者の集計結果の説明を行った。

また、大会参加者７８１名、特別分科会には７８名が参加されたことに対して感謝の意が述べられた。

（収支決算報告は４ページに掲載）

○第１回全国理事会及び第６７回全国研究大会並びに総会について

富田副会長より、平成 26 年 7 月 23～25 日の三日間に渡る岩手大会の報告を行った。

○全国調査について

広報部長より、「平成２６年度全国協会要覧」に掲載の全国調査集計結果についての説明を行った。

事務職員の配置数等については、７年振りにグラフを掲載した。是非事務室内で回覧頂きたい。

○全国大会開催要項の配付方法について

秋田副会長より、各協会への希望調査の結果、佐賀大会から大会開催要項をデータ配信で行うとの報告があった。

配信方法については、全国協会ＨＰからダウンロードする形を取るが、制限されている協会には協会等宛に電子メールで配信することで進めていきたいと説明があった。

＜審議事項＞

○第６７回全国研究大会優秀研究発表者の表彰について

研究部長より、審査の経緯が報告され、最優秀は該当なし、最優秀に準ずるものとして和歌山県と山口県の２本を推挙し表彰をする旨の提案があり、承認された。

○第１回全国理事会の日程について

総務部長より、平成 27 年 7 月 22 日（水）佐賀県「グランデはがくれ」での開催を提案し、承認された。

○第６８回佐賀大会並びに総会の日程について

樋口副会長（佐賀県実行委員長）より、以下のとおり提案があり、承認された。

なお、大会初日は全体会の時間を拡大し、開会

大会日程

・期日　平成 27 年 7 月 23 日(木)～24 日(金)
・会場　佐賀市文化会館
・全体会
　ミニコンサート：佐賀県出身の若手音楽家
　記念講演：藻谷 浩介氏（株)日本総合研究所

式をやや早める日程で行われる事となった。

○休会中の協会からの全国大会参加について

秋田副会長より、休会中の協会から全国大会参加希望者が出た場合の取り扱いについて提案があり、承認された。承認事項は以下のとおり。

・休会協会の大会参加費　5,000 円として全国大会の参加を認める。ただし、休会以外の大会参加費（現行 4,000 円）を変更する場合には、休会協会の大会参加費も変更することとする。

＜連絡事項＞

○協会要覧の配付について（総務部より）

○協会 HP のリニューアルについて（広報部より）

支部情報の活性化を図るため、各協会の取組などを紹介していきたい。

○全国大会の班別討議について(秋田副会長より)

第６８回佐賀大会では高等学校(就学支援金等)を、平成２８年度第６９回大会では特別支援学校(就学奨励費等)を対象として計画している。第６９回大会には特別支援学校に関する研究発表が出てくることを期待している。

（総務部　小澤）

本部活動報告

11/14

第３回常任理事会（定例会）

茨城県つくば市 近代美術館つくば分館

・第２回全国理事会、事務職員研修会について

・佐賀大会分科会運営について

11/13～14

学校組織マネジメント指導者養成研修（高等学校事務職員）役員派遣

茨城県つくば市教員研修センター

11/20

佐賀大会第１回合同打ち合わせ会

東京都渋谷区　国立オリンピック記念青少年総合センター

11/21

東京都渋谷区　国立オリンピック記念青少年総合センター

第２回常任理事会（全体会）

・第２回全国理事会の運営について

第２回全国理事会

　　ページ２～３に概要

事務職員研修会

　　ページ５～７に概要

12/12

第４回常任理事会（定例会）

東京都品川区　小山台会館

・佐賀大会分科会運営について

・第２回全国理事会の反省について

・事務職員研修会反省について

第６７回全国公立高等学校事務職員研究大会収支決算書

収入決算額　8,441,962 円
支出決算額　8,441,962 円
差引残高　0 円

【収入の部】　（△：減額　単位：円）

科　目	予算額	決算額	増減	摘要
会費	2,640,000	3,124,000	484,000	参加費 4,000円×781名
負担金	6,000,000	5,217,418	△ 782,582	協会本部 4,000,000円 東北各協会負担金 800,000円（20万×４県） 岩手県協会拠出金 417,418円
助成金	100,000	100,000	0	公務員弘済会100,000円
雑収入	0	544	544	預金利息
合計	8,740,000	8,441,962	△ 298,038	

【支出の部】

科　目	予算額	決算額	残額	摘要
大会準備費	3,243,000	3,054,306	188,694	
旅費	2,550,000	2,390,120	159,880	実行委員会打合せ、引継ぎ等旅費
会議費	236,000	167,975	68,025	実行委員会会議茶菓等
消耗品費	50,000	65,009	△ 15,009	文具他用紙類，インク代等
印刷製本費	100,000	91,801	8,199	大会案内印刷代
通信運搬費	20,000	15,306	4,694	各種資料等郵送料・振込手数料
使用料及び賃借料	287,000	324,095	△ 37,095	実行委員会会場使用料等
大会運営費	5,497,000	5,387,656	109,344	
旅費	820,000	599,463	220,537	講師・パネリスト等旅費
会議費	265,000	111,000	154,000	打合せ時等の茶菓子代
消耗品費	509,000	500,332	8,668	大会運営・受付・記録用消耗品
食糧費	425,000	424,852	148	講師等昼食・お茶代、参加者飲料水代
印刷製本費	690,000	664,092	25,908	大会要項
通信運搬費	40,000	15,706	24,294	振込手数料・資料等郵送料
使用料及び賃借料	865,000	1,039,139	△ 174,139	大会会場使用料・機器使用料
報償費	480,000	465,984	14,016	講師・パネリスト謝金等
委託料	1,403,000	1,567,088	△ 164,088	旅行取扱い業務委託 大会運営業務委託 看板作成業務等
予備費	0	0	0	
合計	8,740,000	8,441,962	298,038	

平成 26 年度

事務職員研修会

講演：「災害時における学校の役割」
～学校防災管理と避難所運営の基本～
グループ研修：避難所運営ゲーム(HUG)の実践

講師：災害救援ボランティア推進委員会
主任防災教育コンサルタント 宮崎賢哉 氏
http://www.saigai.or.jp/

平成 26 年 11 月 21 日（金）午前 11 時より第 2 回全国理事会の出席者も参加し、防災教育コンサルタントの宮崎賢哉氏による講演が行われた。宮崎氏には、62 名が参加した午後からの避難所運営ゲームの指導も含め、つぎの学習目標を基に、災害時における学校の役割や避難所運営の心構え等をご指導いただいた。

学習目標

1 防災教育と防災管理の違いを理解し、説明できる。
2 防災管理における事務職員の役割を理解し、自校の状況に適用できる。
3 避難所運営ゲーム（HUG）を通じて、避難所運営における事務職員の立場を考え、自分なりの意見を述べることができる。

＜講演の概要＞

◆はじめに◆

災害ボランティアとして阪神・淡路大震災以降様々な被災地支援に携わりましたが、常に「災害ボランティアは被災地に行くだけで良いのか」という疑問を感じていました。どの被災地でも聞いた言葉は「あのときこうしておけば･･･」という後悔の言葉です。それに対してボランティアが出来ることは何もありません。起きてしまった被害の結果を変えることは、誰にもできないからです。そして被災された方が本当に望んでいたのは、被害が出ないことです。

Prevention better than cure(予防は治療に勝る)という言葉がありますが、まず被害が出ないようにするにはどうすれば良いのか、という考えから災害ボランティアと並行して防災教育や平時の備えについて伝えていくようになりました。本日はそうした経験から皆さんにまずは学校防災の基本的な知識や考え方をご紹介したいと思います。

先日、中央教育審議会スポーツ安全部会で審議のまとめが発表されました。安全教育や防災教育をどのように進めていくか報告されています。この中で注目すべき点は、防災教育の成果をどのように評価していくのかという点です。これは専門家でも意見の分かれるところです。職員の皆様と直接関わることはないかもしれませんが、予備知識としてご紹介させていただきます。

本論に入りますが、本日の防災に関する内容は基礎的・基本的な部分の考え方を中心に構成していますので、各地で、各学校で応用していただければと思います。

まず、過去の災害から何を学ぶのか。阪神・淡路大震災以降、私たちは多くのことを学びました。それを踏まえて、兵庫県では 1995 年の時点で防災管理の考え方が示されています。学校防災には、防災計画と防災教育があり、防災計画の中に防災管理と防災に関する組織活動が含まれます。今回の研修テーマと関連するのは、防災計画の中の防

災管理の部分と、その手段としての防災に関する職員研修です。

防災管理を概念としてではなく「災害から生徒や教職員の命を守る」という目的を達成するための具体的手段として捉え、学校内外で積極的に、継続的に防災研修等を実践する必要があります。普段、できないことは災害時にもできません。普段できることが災害時にもできることです。その時、何ができるかは、それまで何をしてきたかで決まります。皆さんが今「私はこれができると思っている」ことと「実際にできる」ことは、全く別ものです。本当に災害に対応できる職員であるためには、相応の教育訓練が必要となります。

◆総論◆　学校防災の教訓と課題

阪神・淡路大震災は、早朝のため、学校管理下の災害ではありませんでしたが、都市型の災害であり、家屋の倒壊や火災の被害が多く、最長で６ヶ月程度学校が避難所となり、多様な避難所運営が見られました。東日本大震災では、平日の午後のため、学校管理下の被害もありました。広範囲の地震・津波、原子力の事故等あり、広域・都市型の災害です。犠牲者の統計を見ると、園児や児童の被害は学校管理下より、引き渡し後の被害が多く引き渡し方法の再検証が必要です。逆に命を守れた事例では教員、特に管理職のとっさの判断が、児童生徒の安全に大きく影響していたことが分かります。

学校職員が持つべき視点としてまずは、先ほども述べた「できると思っていることとできることはちがう」があります。災害現場で起きるミスを少なくするためには、繰り返しの訓練しかありません。特に管理職は「疑わしい時は行動せよ。最悪事態を想定せよ。空振りは許されるが、見逃しは許されない。」というプロアクティブの原則を理解しておくべきです。

今後の課題解決に向けた学校防災の組織体制として大切なことは、学校防災マニュアルの見直しや地域とのつながりの構築が基本となります。教員研修を積極的に実施し、危機管理意識と災害対応能力を伸ばしていく必要があるでしょう。

◆各論１◆　学校防災管理の４つのポイント

備蓄のポイントはこれまで３日の備えと言われていたものが「７日の備え」になっていることです。水や食料だけでなく乳幼児や妊産婦等、重点的な支援が必要な方への配慮、配分ルール作りも重要です。

保護者との連絡調整では、インターネット等の活用や保護者等も含めた訓練の実施が必要で、学校、児童生徒、保護者の対応方針が一致させておきます。

避難生活ではストレスから児童生徒の体調不良が懸念されます。養護教諭、校医、拠点病院、ＰＴＡとの密接な連携体制をとります。トイレ問題は深刻なので、日本トイレ研究所による災害用トイレガイドを参考にしながら対策をしていただきたい。

災害用トイレガイド URL
http://www.toilet.or.jp/toilet-guide/

職員の労務管理も重要です。職員自身の健康管理や職員家族の心身への負担についても、考慮し

なければならなくなります。起きてからのスケジューリングは大変難しいので、最低限のルールは必要になるでしょう。

◆各論２◆　避難所とジエンダー課題

避難所の運営方式は、大きく分けて施設職員指導型と創発型に分類でき、それぞれに特徴があります。「誰がリーダーになり、どんな運営をするか」を見極めることが重要です。避難所運営・管理のポイントは、まず組織をつくることです。トラブルを解決し、ルールを作るために、運営組織を明確しなければなりません。平時の組織作りやリーダーシップのあり方が問われます。

災害時のジェンダーによる課題については、授乳、着替え等プライバシーへの配慮など、女性特有のニーズに対する理解をリーダーや一部の女性だけでなく、ひとりひとりが持つように促していかなければならない。

学校（避難所）は被災者にとって、生活を支える重要な復興・生活再建拠点となります。復興や生活再建は防災以上に学ぶ機会が少ないものですが、復興の教科書というＨＰで詳しく学ぶことができます。

復興の教科書 URL
http://fukko.org/

◆各論３◆　防災管理における教育研修のあり方

滅多に起きない災害に対して適切な行動をとれるようになるためには、基礎知識の習得に加え、具体的な状況を想定したイメージトレーニング、図上訓練が有効です。

◆おわりに◆

災害時における学校の役割は、避難所としての緊急支援もちろんですが、それ以外においても災害が起こってしまった後は、地域の復興支援拠点ですし、災害前においては、防災教育等を、地域にも広めていくという役割があるということを、心にとどめていただければと思います。

＜グループ研修

避難所運営ゲーム（ＨＵＧ）の実践＞

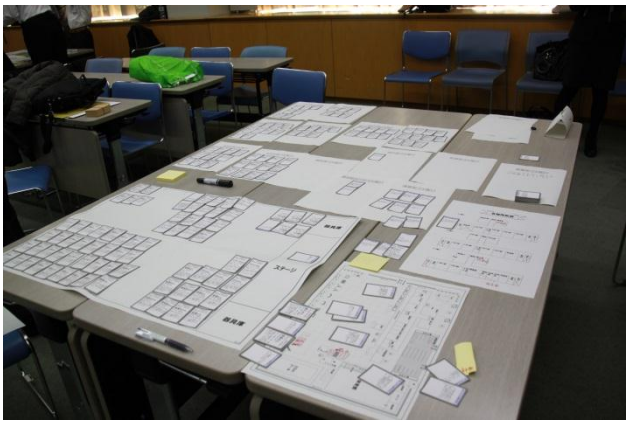
◆ＨＵＧとは◆

ＨＵＧ：避難所(H)運営(U)ゲーム(G)、一般住民向けシミュレーション型訓練

目　的：避難所で起きる状況の理解と対応の学習

概　要：避難所運営を任されたという想定の下、避難者の状況や要望を考慮しながら、迅速かつ適切に対応する術を学ぶゲーム様式の演習

準　備：HUG カード(講師より借用)
マジック（赤・黒)、付箋紙（75×75)
体育館平面図(A1)、校舎全体敷地図(A3)
各階間取り図(A3)、クラス表示(A4)



◆ＨＵＧの実践◆

62 名の参加者を 10 グループに分け、グループの人数を６～7 名とした。講師よりＨＵＧの進め方の説明を受けスタートした。読み上げ役がカードを読み上げ、書かれた避難者の情報により、体育館や教室等に配置していく。高齢者を含んだ家族、病気の人、ペットをつれた人、団体旅行のツアー客がと次々にやってくる避難者をグループ内で相談し配置していった。

体育館内の配置をどのようにするか。校舎内をどのように利用するか。病気や高齢者等への配慮等について参加者は頭を悩ませた。

平成 26 年度

文部科学省講話

「特別支援教育の展望」

講師：初等中等教育局　特別支援教育課
　　井上　賢一　氏

第 2 回全国理事会参加者も含め、文部科学省初等中等教育局　特別支援教育課　井上賢一氏より、「特別支援教育の展望」と題し、つぎのことについて、講話をいただいた。

1　特別支援教育の現状
2　障害者の権利に関する条約への対応
3　平成 27 年度特別支援教育関係概算要求等

当日の資料を全国協会ホームページの会員ページにアップしてありますのでご覧ください。

（研究部　太田）

平成 26 年度

学校組織マネジメント指導者養成研修

（第 3 回：高等学校事務職員研修）

茨城県つくば市にあります「独立行政法人教員研修センター」において、125 名の参加者による平成 26 年度学校組織マネジメント指導者養成研修（第 3 回：高等学校事務職員研修）が平成 26 年 11 月 10 日（月）～11 月 14 日（金）の日程で開催されました。

協会からは、指導・助言者（演習３・演習４）として５名が 11 月 13 日～11 月 14 日の 2 日間参加しました。

研修の目的や内容については以下のとおりです。研修参加者による誌上報告が「学校事務 平成 27 年３月号」で行われる予定ですので、ぜひそちらもご覧ください。

1　目的

学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、校務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として有効に機能することが求められている。

本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。

2　主催　独立行政法人教員研修センター
3　共催　文部科学省
4　会場　独立行政法人教員研修センター
5　受講者

（1）受講資格

高等学校及び特別支援学校の事務長及び同等の事務職員であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等として活動を行う予定である者。

（2）推薦人数

都道府県（高等学校及び特別支援学校を設置する市町村含む）から３名以上・各指定都市から１名以上。

6　研修内容

＜講義１＞
「教育改革の動向について」
文部科学省初等中等教育局視学官
(併)生涯学習政策局情報教育課
情報教育振興室長　　酒井　貢
目的：最新の教育改革等について理解を深める

＜講義２＞
「学習指導要領とこれからの学校運営」
文部科学省初等中等教育局
視学官　　長尾　篤志
目的：学習指導要領の理念や内容を踏まえ、今後の学校運営の在り方ついて理解を深める

＜演習１＞
「自校の取組」
目的：他校の特色ある取組について共有する

＜講義３＞
「信頼される開かれた学校づくりのために」
千葉大学教育学部
教授　天笠　茂
目的：学校評価ガイドラインの改訂の趣旨を踏まえ、学校評価を生かした学校運営の在り方について、具体的な事例を通して理解を深める

＜講義・演習１＞
「学校組織マネジメント①」
教育改革実践家
杉並区立和田中学校・元校長
藤原　和博
目的：学校組織マネジメントの実際について

＜講義・演習２＞
「学校組織マネジメント②」
兵庫教育大学大学院学校教育研究科
准教授　大野　裕己
目的：各地域で取り組まれている教育改革に係る学校運営の事例を知る

＜事例発表＞
「特色ある学校運営の取組」
千葉県立東葛飾高等学校
事務主幹　高村　孝一郎
埼玉県立児玉白楊高等学校
事務室長　青木 一夫
東京都立久我山青光学園
経営企画室長　遠藤 道代
目的：特色ある学校運営の事例を知るとともに、事務職員が持つ課題解決の手がかりを探る

＜演習２＞
「学校運営を支える事務長の役割」
目的：学校運営における事務職員の役割について振り返る

＜講義・演習３＞
「学校組織マネジメント③」
京都教育大学大学院連合教育実践研究科
教授　竺沙　知章
目的：学校組織マネジメントによる望ましい学校運営を図るための検討方法について具体的に理解を深める

＜演習３＞
「学校運営を支える事務長の役割」
目的：学校運営における課題に対する解決方法を検討するとともに、今後の学校事務職員（事務長）の役割を整理する

＜演習４＞
「学校運営を支える事務長の役割」発表
目的：学校運営における課題に対する解決方法の一例を学ぶとともに、今後の学校事務職員（事務長）の役割について理解を深める
国立教育政策研究所初等中等教育研究部
総括研究官　藤原　文雄
東京都立小山台高等学校
経営企画室長　原　とき枝
茨城県立竜ヶ崎第一高等学校
主査兼事務長　秋田　剛
茨城県立つくば特別支援学校
主査兼事務長　富田　英明
茨城県立水戸特別支援学校
主査兼事務長　榊　　元
千葉県立船橋法典高等学校
事務長　太田　秀男

＜講義４＞
「研修講師となるために」
文部科学省初等中等教育局
主任視学官　　清原　洋一
目的：研修のまとめをし、研修講師となるための力量と意欲を高める

編 集 後 記

あけましておめでとうございます。

2015 年（平成 27 年）の干支は「乙未」（きのとひつじ）となります。

群れをなす羊は、家族の安泰を示しいつまでも平和に暮らす事を意味しているそうです。会長のあいさつにもありますが、昨年は自然災害の多い年でした。会員の皆さまが安泰で平和に過ごせる 1 年であればと願います。

（菊地）

「協会ニュース」についてのお問い合わせ、ご連絡は次の広報部編集担当まで

群馬県立大泉高等学校／菊地
TEL 0276-62-3564　FAX 0276-62-7318
E-mail kiku-ta@pref.gunma.lg.jp

千葉県立千城台高等学校／角田
TEL 043-236-0161　FAX 043-236-1640
E-mail r.tsnd2@pref.chiba.lg.jp

◎次号の協会ニュースは来年度の佐賀大会関係の特集を予定しています。